

評価の観点	発想や構想の能力	単元	いろいろな私 (2年 絵画)	実践日時	R1年度
本時のねらい	様々な技法を用いた表現方法を知ること、技法の造形的な特徴に気付き、自分の主題に基づいて効果的に技法を取り入れる計画を立てることができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

導入

【手立て①：学びの見通しがもてる導入の工夫】

- 自分の制作のイメージを具体的に持つことが、学びの見通しをもつことにつながる。そこで、具体的な技法の資料を提示し、それぞれの造形的な特徴に気付けるようにした。その技法の造形的な特徴を確かめた上で、どのような気持ちに合うのかを考える場面を位置付け、自分の主題と造形的な特徴を結び付けて、取り入れる技法の取捨選択ができるようにした。



展開

【手立て②：新しい工夫の視点を得る対話】

- 授業の中に、ペアで交流してお互いの作品について評価・助言する時間を設けた。それによって自分の作品をよりよくするための新たな視点にしたり、自分の主題と技法が適切であるかを確認したりする場にしたいと考えた。しかし、作品について話し合うことを苦手としている生徒も多いため、評価・助言の場面では「さらに、もっと」というキーワードを提示して新しい工夫の視点を具体的に伝えられるようにした。



終末

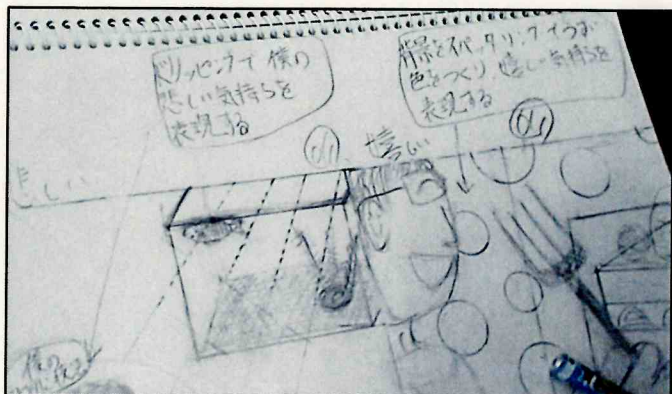
【手立て③：深い学びにするために】

- 技法の造形要素の特徴を具体的にすることで、生徒が自分の主題と技法を結び付けることができるようにした。
- 取り入れたい技法をクロッキー帳に書き込むことで、主題と技法の結び付きを明確にし、より具体的な制作のイメージがもてるようにした。

<板書、生徒の作品、ノートなど>

【生徒Aの授業後の振り返りと作品】

自分の作品で、おもしろいという気持ちを表すためにスパッタリングで明るくして強調したり、つらいという気持ちを表すために線を強調したいと思ってパチックを使おうと思ったりしました。



本時のねらい 様々な技法を用いた表現方法を知ること、技法の造形的な特徴に気付き、自分の主題に基づいて効果的に技法を取り入れる計画を立てることができる。

本時の展開 (7/14)

過程	ねらい	学習活動	指導・援助
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 技法の種類と造形的な特徴に気付く。 	<p>1, 技法を用いた様々な表現方法について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> スパッタリング ドリッピング 吹き流し コラージュ デカルコマニー マーブリング バチック フロッタージュ </div> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな形や色の表現方法があるのだな。 いろいろな技法は、自分の作品にも取り入れられそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法を簡単に紹介し、造形的な特徴に気付かせる。
自分の主題をよりよく表現する技法を効果的に取り入れ、制作計画を立てよう			
見付ける	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に話し合うことを通して、造形的な特徴と感じ方の違いに気付く。 	<p>2, 課題である、「主題をよりよく表現する技法」とはどのようなものであるか、交流して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドリッピングの飛び散った感じは、激しい気持ちを表現するのに合うのではないかな。 マーブリングの絵の具がぐるぐると混ざり合う感じは、不安な様子を表すのに効果的だと思う。 バチックは、色が混ざって淡い感じがするので、温かい気持ちに合いそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に話し合うことで技法の造形的な特徴が気持ちとつながるようにする。
深める	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主題に基づいて効果的に技法を取り入れ、制作計画を立てる。 お互いの作品を評価・助言することで、自分では気付かない工夫の視点を知る。 	<p>3, 交流したことを基に、自分の制作計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は「いらいら」にマーブリングを取り入れて、もやもやした不安定な気持ちを表したい。 「怒り」には絵の具が飛び散るドリッピングで、高ぶった様子を表したい。 温かい気持ちにバチックは合いそうなので、「嬉しい」に取り入れてみよう。 <p>4, ペアで交流をし、お互いの作品について評価・助言し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> マーブリングもいいけど、バチックで線を強調させて、絵の具でももやもやした感じにしてみてもよいと思う。 「怒り」には、デカルコマニーで色をぐちゃぐちゃに組み合わせながらドリッピングをするとさらに効果的なのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書に位置付けたり、制作計画の立て方を具体的に示したりすることで学びの見通しをもたせる。 机間巡視をしながら、造形的な特徴と主題を結び付けて制作計画を立てているか見届け、支援をする。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 新たな工夫の視点に基づいて、よりよい表現ができるように制作計画を立てる。 自分の制作を振り返ることで、本時の学びを確かめる。 	<p>5, ペア交流で話題になったことを基に、改善しながら制作を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> マーブリングにクレヨンを組み合わせ、線を強調させることを試してみたい。 デカルコマニーとドリッピングの組み合わせは、主題に合っている感じがするから取り入れよう。 <p>6, 今日の制作を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、いろいろな技法も分かったし、技法を効果的に取り入れることもできた。 迷っていた所もあったけれど、仲間のアドバイスをもとに制作計画を立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間学びで明らかになった新たな視点に基づいて制作計画を進めるように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準</p> <p>【発想や構想の能力】 主題をよりよく表現するために、技法を効果的に取り入れて制作計画を立てている。 (下絵)</p> </div>

評価の観点	発想や構想の能力	題材	伝わる絵文字 (1年 デザイン)	実践日時	R2.10.26
-------	----------	----	------------------	------	----------

本時のねらい 資料を基に話し合うことを通して、他者に伝わる絵文字を考えるための造形的な特徴に気づき、前時までに集めた絵文字の材料を生かしながら、アイデアスケッチを行うことができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

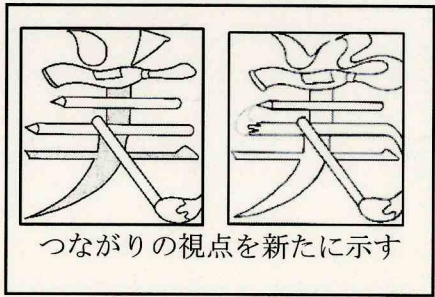
【手立て①：造形的な特徴に気付けるような資料提示を行う】

- 「絵が多い」「文字が変わっていない」「伝えたい意味が違う」「文字の形が分からない」など、よくない部分に気づきやすい資料を提示する。よい資料と比較しながら話し合うことを通して、絵文字を考える時に、気を付けるとよい造形的な特徴を共通理解できるようにした。



【手立て②：「仲間学び」による対話的な学び】

- 表現方法をさらに創意工夫できるように、仲間との交流を制作途中に位置付けた。ペア交流でお互いの作品を評価・助言することで、新たな工夫の視点や自分の作品を客観的に見直すことをねらった。評価・助言の視点がぶれないように、交流の際には、導入で示した造形的な特徴の視点に沿ってお互いの作品を見合い、その後気付いたことを伝え合うようにした。また、教師からも新たな工夫の視点を与え、よりよいものを求め続けられるようにした。



【手立て③：深い学びにするために】

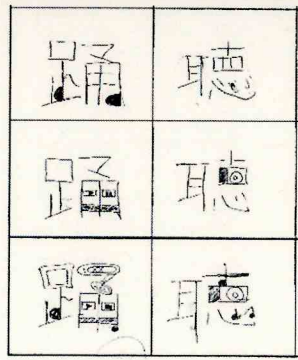
- 終末にもペア交流を位置付け、新たに工夫できたことを伝え合い、それによって、自分の学びを実感できるようにした。また、仲間の制作の様子を広めることで、他の仲間の工夫や作品のよさを感じ、自分の制作に生かしてさらによりよいものを求め続けようとする姿をめざした。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

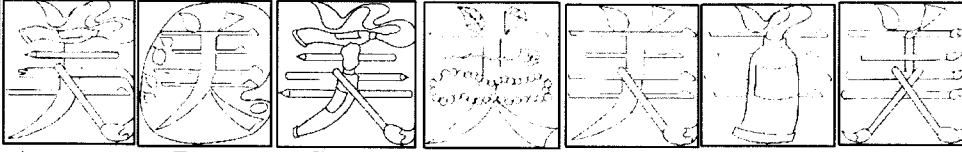
【生徒Bの授業後の振り返りと作品】

前回考えて出した絵をもとにして、なかなかうまく組み合わせることができなかつたけど、動作とかつながって描くことを意識したら「踊」という文字がよい感じになってよいものがつくれました。



本時のねらい 資料を基に話し合うことを通して、他者に伝わる絵文字を考えるための造形的な特徴に気付く、前時まで集めた絵文字の材料を生かしながら、アイデアスケッチを行うことができる。

本時の展開 (5 / 14)

過程	学習活動	深い学びに迫るための指導の手立て
見通しをもつ	<p>1, 本時の学習内容について資料を基に話し合う。</p>  <p>A B C D E F G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな絵文字があるけれど、A と比べるとそれぞれよくない所があるようだ。 ・絵文字を考える時に、意識するとよさそうだ。 <p>2, 絵文字を考えるとときに意識するとよい造形的な特徴を確認し、課題を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の意味やかたちを大切に考えるとよいのだな。 ・組み合わせる絵のバランスが大切なのだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>文字のかたちや意味を生かし、絵と文字のバランスを考えながら、伝わる絵文字のアイデアスケッチをしよう</p> </div>	<p>深い学びに迫るための指導の手立て</p> <p>指導計画の工夫・改善(1)</p> <p>★伝わる絵文字にするための造形的な特徴に気付くような資料提示を行う。</p> <p>B: 文字が装飾されていない</p> <p>C: 全てが絵になっている</p> <p>D: 伝えたい意味と関連がない</p> <p>E: 絵が少ない</p> <p>F: 文字の形が分からない</p> <p>G: 同じ絵が繰り返されている</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【深い学びの姿】 漢字の意味やかたちと造形的な特徴を結び付けながらより分かりやすく見やすい絵文字のアイデアを考えている。</p> </div>
	よりよさを求める	<p>3, 絵文字を考えるときの手順について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回集めた材料を生かして考えればよいのだな。 ・どの漢字の画に合うのか、試してみたいな。 <p>4, 伝わる絵文字にするための造形的な特徴を意識しながら、絵文字のアイデアスケッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回集めた材料を漢字の部首に組み合わせてみよう。 ・絵をどれだけ入れたらよいか、バランスを考えながらスケッチしてみよう。 <p>5, ペアで交流をし、お互いの作品について、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだと、絵ばかりになってしまうので、もう少し文字の部分を増やしたほうがよいと思うよ。 ・絵の組み合わせ方が、画の形に合っていないから、違う画に入れた方がよいかも说不定よ。 <p>6, ペア交流で話題になったことを基に、改善しながらアイデアスケッチを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の部分を少し増やすようにしてみよう。 ・絵を組み合わせる場所を違う場所にしてみよう。
確かめる	<p>7, 今日の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は、伝わる絵文字にするために、漢字の意味やかたち絵と文字のバランスを考えながらアイデアスケッチをすることができた。次回は、さらに絵を分かりやすく描いて具体的にしていこう。 	<p>指導計画の工夫・改善(3)</p> <p>★自分の制作を振り返り、仲間に伝えることで、自分の学びを実感させる。</p>

評価の観点	思考力・判断力・表現力	題材	私との対話（3年 絵画）	実践日時	R3.6.21
-------	-------------	----	--------------	------	---------

自分の主題をより伝わるように表現するには、主人公や奥行き、動きなどの造形的な特徴を意識するとよいことに気づき、構成を工夫しながらアイデアスケッチを描くことができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：学びの見通しをもつための手立て】

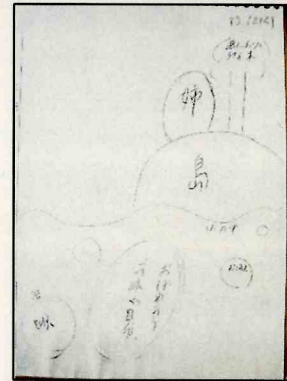
- ・ 構図を学習するにおいて、比較して考えられる資料を準備する。それをもとに話し合うことを通して、構図をよりよくするための「主人公」「動き」「奥行き」という造形的な特徴に気付くことができるようにした。



【手立て②：「仲間学び」による対話的な学び】

- ・ ペアで、お互いの主題とアイデアスケッチを見て、主題がより伝わるように工夫されているかどうかについて評価・助言をした。どんな些細なことでも、助言をもらうことで、新しい工夫の視点を得て、さらによりよいものを求めていくことができるようにした。

姉と自分を斜めに配置してずらすとよいと思います。



【手立て③：深い学びにするために】

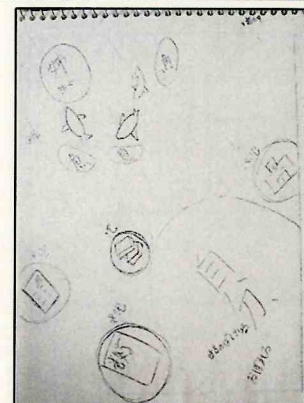
- ・ 授業の終末には、振り返りを行った。本時の造形的な特徴の視点である「主人公」「奥行き」「動き」を意識しながらアイデアスケッチに取り組めたか、主題がより伝わるように工夫できたかについて、自分の制作の様子を振り返り、本時の学びを実感できるようにした。

構成を考える時に、時間から逃げようとする自分しか思い浮かばなかったけど、苦しいことを表現するために場面を海にして、おぼれそうになっている所を描くという工夫ができた。

<板書、生徒の作品、ノートなど>

【生徒Cの授業後の振り返りと作品】


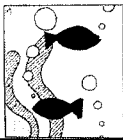
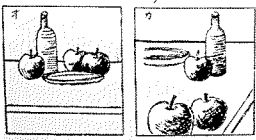
主人公を目立たせるために、自分を大きく描き姉を小さく描いた。また、海の中なので、動きをつけるために自分を少し画面からはみ出して描いた。そうすることでどんどん下に沈んでいく感じにできた。



本時のねらい

自分の主題をより伝わるように表現するには、主人公や奥行き、動きなどの造形的な特徴を意識するとよいことに気付き、構成を工夫しながらアイデアスケッチを描くことができる。

本時の展開 (5 / 18)

過程	学習活動	深い学びに迫るための指導の手立て
見直しをもつ	<p>1, 前時までの活動を振り返り、本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の主題がより伝わるように、構成を工夫しながらアイデアスケッチを描こう</p> </div> <p>2, 資料を基に話し合うことを通して、構成をよりよくするための造形的な特徴に気付く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>主人公</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置の工夫 ・大きさを工夫 ・描写表現の工夫 </div> <div style="text-align: center;">  <p>動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物にポーズをつける ・画面からはみだす ・だんだんと大きさや位置を変える </div> <div style="text-align: center;">  <p>奥行き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜めの視点で描く ・手前は大きく、奥は小さく描く ・物を重ねる </div> </div> <p>・主人公を分かりやすく描くには、位置や大きさを工夫するといいのだな。</p> <p>・物にポーズをつけたり、大きさを変えたりすることで、動きを感じられるようになるのだな。</p> <p>・斜めの視点や、大きさの違いは、奥行きを出すために大切だ。</p> <p>3, 「主人公」「動き」「奥行き」などの造形的な特徴を生かしながら、アイデアスケッチを描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回描いたアイデアスケッチのモチーフの大きさを変えて描いてみよう。 ・今度は、斜めの視点を取り入れて描いてみよう。 ・全体に流れを付けて、動きを出せるように工夫してみよう。 	<p>深い学びに迫るための指導の手立て</p> <p>指導内容の工夫・改善(1)</p> <p>★資料をもとに話し合うことを通して、造形的な特徴を意識させる。</p> <p>・具体的な例を示すことによって、工夫の視点を分かりやすく伝える。</p> <p>【評価規準】</p> <p>造形的な特徴を意識しながら、より主題が伝わる構成を工夫することができる。 (思考力・判断力・表現力)</p>
よりよさを求める	<p>4, ペアで交流をし、主題をよりよく表すことができているかどうかについて評価・助言をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回描いたものよりも、主人公が分かりやすくなっていて、よいと思う。 ・斜めに描いたことで、奥行きが出て、立体感を感じられるようになっていて、よいと思う。 ・動きを感じられるようになっているけど、あまり大きな流れをつくると、主題に合わない感じがするから、部分的に取り入れるとよいと思う。 <p>5, 交流したことをもとにして、さらに主題が伝わる構成を工夫しながらアイデアスケッチを描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面の流れを、さっき教えてもらったように部分的に取り入れるようにして、主題がより伝わるようにもう一度描き直してみよう。 	<p>指導内容の工夫・改善(2)</p> <p>★仲間との交流を位置付け、主題がより伝わる構成になっているかどうかを確かめさせる。</p> <p>【深い学びの姿】</p> <p>造形的な特徴を意識しながら、より主題を伝えられるような構成を工夫する。</p>
確かめる	<p>6, 今日の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きを出すように、工夫して描くことができたけど、主題と離れてしまいそうだったので、仲間に教えてもらったことを生かして、納得いくアイデアスケッチが描けたのでよかった。 	<p>指導内容の工夫・改善(3)</p> <p>★自分の制作を振り返ることで、自分の学びを実感させる。</p>